

Aquaculture Stewardship Council (水産養殖管理協議会) 及び  
Marine Stewardship Council (海洋管理協議会)

ASC-MSC 海藻(藻類)審査通知様式  
[初回審査]

1.0版 (2017年12月8日発行)



Aquaculture  
Stewardship  
Council



審査関連文書:

ASC-MSC 海藻(藻類)規格

ASC-MSC 海藻(藻類)認証・認定要求事項

本文書名:

ASC-MSC 海藻(藻類)審査通知様式 1.0版

版数

版	日付	変更箇所
1.0	2017/12/8	新規文書



生産区域の詳細

生産区域名	八重山殖産株式会社
対象種の一般名称	ミドリムシ クロレラ
対象種の学名	Euglena spp. Chlorella spp.
生産システム	陸上養殖 / 人工種苗
生産区域の位置	〒907-0242 沖縄県石垣市白保287-14
資源分布	カテゴリー-Ciiにつき該当しない。天然種苗は使用しない。
受入海域	沖縄県石垣島白保海岸地域
生産区域の顧客	出雲 充（株式会社ユーグレナ 代表取締役社長）
設備	養殖機器、乾燥機、分離器、冷蔵庫
認証単位	UoCはUoAと同じである。
収穫時期	年間を通じて
管理システム	当社は、養殖のプロセスを定量化しながら確認、管理をしている。 用即プロセスには、種苗の培養、養殖、洗浄、分離、濃縮、冷却、プランチング、乾燥、パッケージングが含まれる。
海藻分類	Cii. 完全な陸上養殖システム。天然種苗の供給は不要。
生産区域が適用範囲に含まれる事を示す記述	<p>当認証申請者は、海藻基準セクション2の適用範囲に関する要求事項を満たしていることを示す認証機関による記述。</p> <p>採取または養殖活動は、対象種が海藻の場合のみ認証の対象となる。対象種は、ミドリムシおよびクロレラであり、共に海藻である。</p> <p>本基準は、世界中のどの場所におけるどのような規模の事業にも適用され、天然資源の採取と養殖システムによる生産の両方を含む。本審査の対象は養殖システムによる生産である。</p> <p>本基準は、海藻生産区域（生産者）のみに適用される。既存のASCまたはMSC基準の下で評価されているその他の生産区域（生産者）は海藻基準によっていかなる影響も受けない。生産区域には、ミドリムシおよびクロレラのみが含まれる。</p> <p>外来種（非在来種）の移入を含む採取または養殖活動は、以下を満たさない限り認証対象にならない： 海藻基準に対する認証申請日の、少なくとも20年前に移入されていること。または 外来種が水環境から完全に隔離された地上の施設で養殖されていること。 ミドリムシ、クロレラは外来種ではない。</p> <p>認証を望む組織は、少なくとも12ヵ月、もしくは1採取サイクルのうち、どちらか短い期間にわたって操業していなければならない。クロレラの実績は過去40年以上に渡って行われている、ミドリムシの実績は過去10年以上に渡って行われている。</p> <p>認証を望む組織は、基準に定められた期間を包括する実績データの記録を有していなければならない。申請者は十分なデータを有する。</p> <p>変異原性、発がん性、催奇形性のある農薬や、海洋環境、もしくは養殖場、養殖された海藻に毒素が残存する、その他の化学薬品を使用する採取または養殖活動は認証の対象にならない。申請者は毒性の化学薬品を使用していない。</p>
生産区域の操業者	中野 良平
極小規模な家族経営であることを示す情報	極小規模な家族経営ではない。
収穫/生産データ	年間約100トンのミドリムシおよび約100トンのクロレラ。
生産区域の沿革	八重山殖産株式会社は1975年に設立された。1984年には培養プール13基を増設した。
同地域内の他の生産区域	なし。
主な市場	健康食品や化粧品の消費者市場
認証機関によるその他の情報（生産区域に関する特記すべき注意事項等）	-

審査詳細

認証機関 (CAB)	認証機関名: アミタ株式会社
	審査チームリーダー: 小川直也
	審査に関する連絡先 (審査チームリーダーと異なる場合): 同上
	メール: ninsho@amita-net.co.jp
	電話: +81-3-5215-8326
	所在地: 〒102-0073 東京都千代田区九段下3-2-4
顧客	株式会社ユーグレナ
	金山 浩輝
	ヘルスケア事業本部 ライフサイエンス研究課 主任
	<a href="mailto:kanayama@euglena.jp">kanayama@euglena.jp</a>
	050-1746-6115
	〒105-0014 東京都港区芝5-29-11
審査のタイプ	初回審査
推定される審査の期間およびスケジュール	現地監査: 2018年4月17日、18日 パブリックコメント用報告書草案: 2018年5月17日 最終報告書: 2018年6月17日 公開用認証報告書および認証発行: 2018年7月1日
チームリーダー	小川直也: 小川が初回審査のチームリーダーである。小川は環境工学の専門家であり、審査員として3年間で5回以上のASC養殖認証審査経験を有する。ASC-MSC海草審査員トレーニングを修了している。また小川は社会面の審査員も務める。ASCの社会面の審査を5度以上実施しており、SA8000アドバンスドコースを修了している。小川は、審査対象の生産区域といかなる利害関係もない。
計画されている審査員	太齋 彰浩 - 専門家 白木 朋子 - 社会面の審査員
現地監査日	2018年4月17日、18日
現地監査日および場所	生産サイト: 現地監査日: 2018年4月17日、18日。座標: 24.34653 N, 124.235802 E
利害関係者	従業員、株主、消費者、加工業者、物流業者、地域住民、研究者
リスクに基づく審査枠組み	リスクに基づく審査枠組みは用いない。
利害関係者の招待	現地監査の主な目的は、情報収集および生産区域に関心のある利害関係者と話すことである。リスクに基づく審査枠組みを用いる場合は、現地監査において利害関係者によって主導される定量、半定量的な分析を用いる。聞き取りによって十分な結果を得るためには、生産区域に関するバランスの取れた知識を有する幅広い利害関係者の参加が必須である。生産区域に関する知見を有する利害関係者には是非とも話を聞く機会をいただきたい。

現地監査の間に話すことができない場合や、話すことを希望しない利害関係者は情報を文書にて審査チームに送ってもよい。[認証機関認定要求事項17.6.6.1]

## CoCに関する情報

以下のリスクが現在または潜在的にあるか特定すること	存在する場合はリスク因子の説明	リスクを管理するために整備されているトレーサビリティ、分別またはその他の仕組み
a. 同事業体内で生産される同じまたは類似する見た目や魚種の製品を考慮した上で認証製品と非認証製品が混在または置き換わる可能性	審査単位内で生産されるのは認証藻類だけであるためリスクはない。	審査単位内で生産されるのは認証藻類だけである。
b. 養殖、収穫、輸送、保管または加工業務中に存在する同じまたは類似する見た目や魚種の製品を考慮した上で認証製品と非認証製品が混在または置き換わる可能性	生産されたミドリムシとクロレラは乾燥され、同施設内で保管され、その後他の地域にある委託工場に輸送されて最終製品になる。外部委託工場において潜在的なリスクがある。	審査単位では収穫後の認証藻類のみが乾燥、保管される。外部委託工場については別途CoC認証を取得する予定である。
c. 認証製品の取り扱い、輸送、保管または加工において請負業者が使用される可能性	乾燥されたミドリムシとクロレラは、外部委託工場において最終製品へと加工される。	外部委託工場については別途CoC認証を取得する予定である。
d. 製品がCoCへ受け渡される前に、認証製品と非認証製品が混在または置き換わる、または間違っラベルが付けられる、その他の機会	そのような機会はない。	そのような機会はない。

## 小川 直也

### A. 所属、連絡先

1. 所属: アミタ株式会社
2. 所在地: 〒550-0002 大阪市西区江戸堀 1-9-1 肥後橋センタービル  
電話番号: 06-7654-6882  
ファックス番号: 06-6444-0690
3. E-mail: nogawa@amita-net.co.jp

### B. 業務経歴

- 2002年4月 - 現在      アミタ株式会社
- Aquaculture Stewardship Council (水産養殖管理協議会:ASC) 養殖場認証審査員
  - Marine Stewardship Council (海洋管理協議会:MSC) および Aquaculture Stewardship Council (水産養殖管理協議会:ASC) COC 認証審査員
  - Forest Stewardship Council® (森林管理協議会:FSC®) 森林管理(FM)認証および COC 認証審査員
  - Programme for the Endorsement of Forest Certification (PEFC) COC 認証審査員

### 業務経験

#### 審査

- カキ、ブリ養殖場において6回のASC養殖場認証審査
- 加工業者、流通業者、商社など様々な業種における30回以上のMSC/ASC COC 審査
- 100ha から143,000haまで、企業、森林組合、市町村などが管理する人工林や天然林に対する100回以上のFSC FM 認証審査
- 製材所、木工所、家具業者、工務店、木材市場、製紙会社、印刷会社、商社など様々な企業・団体における200回以上のFSC COC 審査

#### 普及啓発

- FSC FM 認証、ASC 養殖場認証、FSC やMSC/ASC COC 認証の講習会を講師として開催。説明資料を作成。

### C. 教育・研修経歴

- 2007年5月      ISO 9000 審査員・主任審査員研修 (IRCA 1197759)
- 2002年3月      東京大学農学生命科学研究科修了 修士(農学)
- 2000年3月      東京大学農学部 卒業
- 専門: 生態学

### D. 資格

技術士(環境部門)

# 太齋 彰浩

宮城県南三陸町志津川廻館

divedoor@mac.com

---

## 専門技術

- ・ 11年間宮城県南三陸町の志津川自然環境活用センターにおいて計画と管理を実施
- ・ 南三陸町において東日本大震災からの復興活動に従事
- ・ 多様なステークホルダーの間で合意形成のファシリテーター
- ・ 生態系調査、特にスキューバダイビングによる水中の調査の高い技術スキル

## 業務経歴

- |          |  |
|----------|--|
| 1994年    | 財団法人電力中央研究所<br>研究員として藻場生態系研究に従事                                  |
| 2000年    | 南三陸町志津川自然環境活用センター<br>町立自然環境活用センターの再生のため、海を題材とした教育と研究施設への<br>企画立案 |
| 2011年    | 南三陸町産業振興課水産業振興係長<br>東日本大震災で壊滅した町の水産業復旧と資源循環型まちづくりに携わる。           |
| 2014年    | 南三陸町企画課地方創生・官民連携推進室係長<br>人口減少への対応策立案・実施と官民連携の推進に携わる。             |
| 2017年～現在 | デザイン・バル 代表<br>人材育成、海洋環境・動植物の潜水調査業務                               |

## 教育履歴

- |       |                            |
|-------|----------------------------|
| 1992年 | 筑波大学第2学群生物学類 卒業            |
| 1994年 | 筑波大学大学院環境科学研究科 修了 修士（環境科学） |

## 論文

- ・ 東日本大震災からの沿岸漁業復興を目指す志津川湾藻場再生への取り組み  
沿岸海洋研究 52(1), 103-110, 2014-08  
小松輝久、太齋彰浩、他
- ・ 藻場生態系の資源動態定量化技術の開発--藻食性端脚類の個体群成長モデルの開発と群接触速度  
の見積もり  
電力中央研究所報告 研究報告 (99059), 1~18, 2000-05  
太齋彰浩・本多正樹
- ・ カジメ生産力に及ぼす窒素栄養塩濃度影響のモデル化  
電力中央研究所報告 研究報告 (99069) 1~15, 2000-05  
本多正樹・太齋彰浩

# 白木朋子 (しろき ともこ)

特定非営利活動法人 ACE (エース) 事務局長、理事。1974 年宮城県仙台市生まれ。宮城学院高等学校、明治学院大学国際学部卒業。英国ロンドン大学東洋アフリカ大学院国際教養ディプロマ課程 (開発学、比較文化学専攻)、英国サセックス大学、文化環境開発研究所 (CDE)、開発人類学修士課程修了。大学 3 年のゼミでインドにフィールドワークへ行き、児童労働の現実を目の当たりにし衝撃を受ける。1997 年、ACE 設立に参画し活動を開始。英国留学を経て、2005 年 3 月まで民間の開発援助コンサルティング会社に勤務し、政府開発援助 (ODA) 社会開発分野 (貧困、社会福祉、参加型開発) の調査、評価、研修業務に従事する傍ら、ACE で活動。2005 年の NPO 法人化に伴い前職を退職、現在に至る。海外事業の運営管理 (ガーナ、インド)、講演・ワークショップ、教材開発、ワークショップファシリテーター育成、企業との連携、CSR コンサルティングのほか、広報、資金調達を含む組織マネジメント全般に従事。児童労働ネットワーク運営委員、開発教育協会評議員、宮城大学非常勤講師。

## 執筆物・研究発表他

### ●書籍、出版物

- 「子どもたちにしあわせを運ぶチョコレート：世界から児童労働をなくす方法」合同出版、2015 年  
『児童労働撤廃に向けたステークホルダー連携の意義と NGO の役割』、『児童労働撤廃に向けて—今、私たちにできること』中村まり、山形辰史編、アジア経済研究所、2012 年  
「わたし 8 歳、カカオ畑で働きつづけて。：児童労働者とよばれる 2 億 1800 万人の子どもたち」合同出版、2007 年 11 月 (岩附由香、水寄僚子との共同執筆)  
『児童労働と企業の社会的責任』、『アジア・太平洋人権レビュー 2004 企業の社会的責任と人権』、(財) アジア・太平洋人権情報センター [ヒューライツ大阪] 編、現代人文社、2004 年 6 月

### ●主な記事

- 「児童労働を取り巻く危機と今わたしたちにできること」、『季刊労働法』249 号 (2015 年夏季)  
「学びを社会を変える力にする～「おいしいチョコレートの真実」ワークショップの実践から学んだ開発教育の可能性」、『開発教育』第 58 号、2011 年 8 月  
「グローバル経済と子どもの労働力」、『DAYS JAPAN (特集：この地球の子どもたち)』2008 年 10 月  
「グローバル化と児童労働—国際条約と企業の社会的責任」、『法律時報』2005 年 77 巻 1 号、2005 年 1 月

### ●論文

- Striving for Childhood: Children's lives, and global and local movements concerning child labour, Sep. 2000, MA dissertation, Graduate Research Centre for the Comparative Study of Culture, Development and Environment, University of Sussex. (修士論文)  
Poverty and Child Labour in Rural India, April 1999, Diploma dissertation, School of Oriental and African Studies, University of London (ディプロマ論文)  
「児童労働をめぐる悪循環—インド社会における家庭崩壊の危機—」、明治学院大学国際学部国際学科学士論文、1998 年 3 月 24 日 (学士論文)

### ●主なテレビ出演

- NHK 「視点・論点」 「アフリカとどう向き合うか (4) 児童労働をなくすために」 (2013.5.30 放送)  
NHK BS1 「地球ドキュメント MISSION 「カカオ畑から子どもを救え」 (2011.1.16 放送)

以上